

## 働く障害者がつくった心のこもった逸品を地域へ広める 〜かながわふれあいマルシェinらぽーと横浜開催〜

製品の販売を通じて県内の障害者支援事業所の活動や障害の理解を広め、工賃アップのための受注拡大へつなげることを目的に、11月14日、本会社会就労センター協議会と(特非)神奈川県セルプセンターが主催する「かながわふれあいマルシェ」がらぽーと横浜(横浜市都筑区)で開催されました。

マルシェには、県内から9の障害福祉サービス事業所が出店。各事業所が菓子、ケーキ、パンなどの食品からノート、一筆箋、葉書などの文具、トートバックやブックカバーなどの雑貨、アクセサリー、さらにペット用のおやつまで多岐にわたる自慢の逸品を出品しました。マルシェには子ども連れの家族やビジネスマン、地域住民など多くの買い物客が足を止め、



多くの買い物客でにぎわう出店ブースの様子

思い思いに製品を手にとったり出店者に質問したりと盛況となりました。

責任者でワークショップ・フレンド施設長の矢嶋正貴さんは「このマルシェは、自主製品の販売活動を通じて、工賃アップにつなげることはもちろん、広く障害福祉サービスの取り組みを知っていただけでなくことにも効果があると思います。また、参加した事業所間でも交流を深めていただき、今後の商品開発などスキルアップしてもらうことも狙いとしています。協議会でさらにより良いマルシェの実施方法などを検討しながら、今後も継続していきます」とマルシェ開催の狙いを語ります。

出店した事業所へのアンケートからも「直接の売上だけではなく、顔と顔を合わせながら事業所の製品や活動を知ってもらえたことが大きな成果」「開催地などを広げて続けてほしい」といった働く障害者、職員の声が聞かれるなど、関係者にとっても大きな手ごたえを感じる機会となりました。

(企画調整・情報提供担当)

## 子ども・若者の育ちと自立を支援する活動ネットワークを考える 〜第3回子ども・若者の居場所づくりフォーラム開催〜

本会では、政策提言活動を通して把握された課題から、子ども・若者の育ちと自立を地域福祉の課題ととらえ、(特非)よこはま地域福祉研究センター、(福)県共同募金会との協働により「子ども・若者の育ちと自立を支える協働事業」に取り組んでいます。

協働事業の一つとして『子ども・若者の居場所づくり事例集』を取材して作成しています。昨年度11カ所、今年度12カ所の居場所を訪ねる中で、活発に活動している団体のそれぞれのネットワークには、「個別支援」「活動団体の継続発展」「活動地域の地域力向上」の3つの共通点があることが見えてきました。

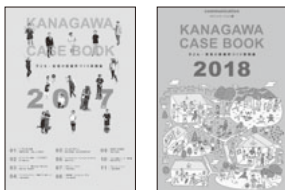
そこで、標記フォーラム(県委託事業)は、テーマを「ネットワーク」として11月20日に神奈川県民ホール(横浜市中区)で開催し、子ども食堂関係者、民生委員児童委員、福祉施設職員等多くの参加がありました。フォーラムは、基調講演、子ども・若者支援団体の事

例発表、グループワークの3部構成。より良い居場所づくりのために、ネットワーク構築の目的とプロセス、構築したネットワークがどのように機能しているのか等について講演と事例発表で共有したうえで、グループワークで参加者が対話する内容としました。

参加者からは「自由な視野の広がりや考え方を学んだ」などの意見が聞かれ、また、お互いの活動見学を約束するなど、新たなネットワークが生まれていました。※フォーラムの様子は『子ども・若者の居場所づくりガイドネットワーク編(2月発行)』に掲載します。

(企画調整・情報提供担当)

基調講演：「奇跡をもたらすネットワーク」栗林知絵子さん((特非)豊島子どもWAKUWAKUネットワーク)  
事例報告：草柳ゆきさん(ずし子ども0円食堂)、大澤洋子さん(メサ・グランデ)、鳴海美和子さん(働楽就労支援センター)、高城芳之さん((特非)アクションポート横浜)※事例報告者の活動内容は、事例集に掲載しています



事例集は本会ホームページより閲覧可能  
<http://www.knsyk.jp/s/shiru/seisyounen.html>